

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071001376		
法人名	株式会社サポート		
事業所名	グループホームピアおざさ		
所在地	〒810-0033 福岡県福岡市中央区小笹1丁目14番2号 TEL092-525-7352		
自己評価作成日	令和4年10月12日	評価結果確定日	令和5年1月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡市南区井尻4-2-1 TEL:092-589-5680 HP:https://www.r2s.co.jp		
訪問調査日	令和4年11月8日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

<p>ニーズに基づき、柔軟性と応用力のあるサービス提供に力を入れています。また、市街地の立地でありながら、広いベランダを活用して、花見や、夏祭り、また、四季折々の花や野菜を栽培しており、季節を感じて頂いています。同法人や他施設と連結し、季節ごとの行事参加や外食、園芸ボランティアの呼び込みなども計画し、刺激のある生活が送れるよう努めています。(コロナ禍の為、自粛しているところもあります。)</p>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の周辺は住宅地であり、スーパーマーケット、コンビニエンスストア、金融機関、飲食店、医療機関等生活に欠かせない社会資源が身近にあり、生活がしやすい環境に「グループホームピアおざさ」は建っている。コロナ禍ではあるものの、運営推進会議や避難訓練の際に、地域の方々に参加を呼びかけて地域との繋がりが途切れないようにしたり、可能な限り外出をしたりする機会を持つようになっている。運営推進会議は書面会議ではあるものの、会議録を地域の方々や利用者家族に送付して、事業所の状況を少しでも知っていただくよう努力をしている。利用者の状態によるが、看取り介護の対応をしており、住み慣れた事業所で最期まで医療との連携を図りながら積極的に取り組んでいる事業所である。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果						
自己	外部	項目	自己評価	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を施設内に掲示している。職員全員が共有し、支援に繋げるようにしている。	コロナ禍で、地域の行事は中止される事が多いが、家族、医療との繋がりは情報を共有している。	事業所理念を事業所入り口やユニット内に掲示して、職員がいつでも見れるようにしている。入職者があった時や、ミーティング時に理念を唱和したり、朝礼で唱和して、理念を振り返るようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍において、交流する機会がなくなってきたが、以前は、地域の方々との交流の場には参加するように努めて理解を深めて頂いていた。	コロナ禍で地域のイベントに参加する事は無いが、大きなイベントの手伝いをしたり、日常的に交流している。	コロナ禍ではありながらも、地域の公園で開催された秋祭りに職員がお手伝いに行っている。事業所職員に民生委員をしている職員がおり、地域での活動状況や行事の情報を得ている。町内会には加入しており、地域の行事案内が来たり市政だよりも届けたりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、認知症の方についての理解を深めて頂ける機会を設けていた、ご家族様への参加も促し、参加して頂いていた。	認知症サポーター養成講座にて、地域の人々の質問にお答えしたり一緒に考えたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で、会議は中止になっているが、2ヶ月に1回、ケアプランセンターや、ご家族、地域住民へ運営推進会議の資料を送付している。	コロナ禍で中止になっているが、毎月の状況について2か月毎にファックス等で報告し意見を求めたりしている。	コロナ禍であるため、書面開催をしている。書面会議録を地区商店会会長、中央区役所職員、地域包括支援センター、近隣施設管理者、利用者家族に送付して、ご意見を頂いている。頂いたご意見については回答をするようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	空室状況の案内をする際にケアプランセンターへ連絡し、連携を図っている。また、他施設様と連絡交流する場があり、お互いの情報交換を図っている。	運営推進会議に出席していただいた皆様とは、コロナ禍でも何らかのやりとりをしながら協力関係を築いている。	コロナウイルス感染予防の指導のメール連絡があったり、生活保護受給者がいるため、必要時にケースワーカーと連絡を取り合っている。介護保険更新申請の際に市町村窓口で手続きの代行をする等して、必要時に市町村と連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行っており、身体拘束委員会を設けて、3カ月毎に1回開催しており、職員が正しい認識をもち、ご利用者様の支援をしている。	身体拘束委員会を3か月毎に行い、事例をもとに勉強会を開いている。	現在、身体拘束をしている利用者はいない。身体拘束委員会を設けて3か月に1回内部研修を実施している。研修に参加出来なかった職員には回覧研修を実施し、回覧研修後は職員の印鑑を押し印して、全職員が研修内容を把握したことが分かるようにしている。「身体拘束等の適正化のための指針」「身体拘束廃止委員会マニュアル」を作成している。	

R4.11自己・外部評価表(グループホームピアおざさ)

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行っており、理解を深め、利用者様の身体に変化がないか、様子などを観察し、職員同士で、共有している。	勉強会にて話し合い、理解した上で虐待防止に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を閲覧できるように用意している。勉強会があれば、出席するようにしている。	成年後見制度についての必要性を学んでいる。	成年後見制度や日常生活自立支援事業についてのパンフレットを準備して、地域の方々や利用者家族から聞かれた時に説明できるように準備している。成年後見制度を利用されている利用者がつい最近まで入居されていたため、連絡を取り合っていたこともある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、説明をし理解、納得をして頂いている。その後もご相談あれば、都度、対応している。	契約の際は、書類を読み合わせながら説明し、不明点がないかを確認している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様、ご家族様からの意見、要望をできるだけ、取り入れるように努めている。	コロナ禍で面会が出来ず、ご家族と接する事も殆どない中、電話や手紙等でコミュニケーションをとり、ご意見ご要望を伺っている。	コロナ禍で面会について利用者家族から要望があった事がある。看取り期の利用者で、どうしても面会がしたいとの強い希望があったため、その際は抗原検査を実施して陰性であれば、居室に入っていたら、面会対応をしたことがある。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のユニット会議を行い、意見の場を設けている。日々、気が付いた事は、管理者を含めて職員同士で共有、相談し、支援、業務の改善に努めている。	毎月のユニット会議で、意見を出し合い解決している。	年1回管理者面談を実施して、職員の意見を吸い上げる機会を設けている。毎月のユニット会議の際にも、運営についての意見がある時は意見を出してもらっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って業務ができるように、シフト管理、業務の改善を行っている。また、毎年、キャリアアップ評価表で目標、反省を踏まえて、面談を行っている。	職員のシフトに負担がないように調整している。又、、毎年自己評価や目標設定を行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	面接をし本人の人柄、仕事に対する意欲を考慮している。職員が、仕事に対しての負担ができるだけ少なくなり、向上心をもって働くことができるように、話し合いながら、業務の改善をしている。	採用に関して、性別や年齢問うの理由で対象から排除していない。採用あたっては面接で要望等を聞き、自身が発揮できるよう勤めている。	採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用の対象外とするようなことはしていない。職員の中にはレクリエーションが得意な職員がいるので、エレキギター等楽器を一緒に使いながら利用者と楽しむ時間を持ちながら過ごしている。体操が好きな職員は、利用者と一緒に体操をしたりする等、職員は得意分野を生かしながら仕事が出来ている。	

R4.11自己・外部評価表(グループホームピアおざさ)

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年齢、性別問わず、面接を行い、個人の人物、仕事に対する意欲、また、経験などを考慮して、採用検討している。職員一人ずつの能力を高めていけるよう指導に努めている。	ユニット会議において資料を作成して、内部研修を行っている。	事業所内で内部研修を実施している。高齢者虐待防止の研修や身体拘束の排除のための取り組みについての研修の中に盛り込んで、研修を実施している。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ過で、研修参加できていないが、職員の希望や、必要な研修に参加して頂けるようシフト調整をしている。	1年を振り返り、シートを活用し管理者との面談を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交流は連絡しあい、情報交換をしている。また、空室の状況や案内、質問、相談なども気軽に話し合える場になっている。	中央ネットワーク5の勉強会に参加している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い本人様が安心してサービスを受けれる環境作りを行っている。	入居前に、管理者とケアマネジャーが本人とめ面談を行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学を行いその中でご家族様が相談したいことを話やすい雰囲気作りをしている。	事前に施設見学をしていただいたり、ご自宅へ面談へお伺いし話を傾聴している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時ヒアリングを行い本人様の様子を知ることで最適なサービスを受けていただけるよう支援している。	現在、利用中の介護サービスやかかりつけ医療等、入居後どう移行していくのか確認している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様と日常からたくさん会話することで何を求めているのか知ることができ信頼関係の構築につながっている。	本人が発揮できる能力は何か考察し、お手伝いや作業など、取り組める事を提案している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	物事を決めるときは必ずご家族の意見を取り入れることでスタッフとの信頼関係ができていく。	月に1回お便りを作成し、施設での生活を報告し、又、電話での相談を行っている。		



R4.11自己・外部評価表(グループホームピアおざさ)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・入居前からのなじみの病院利用についてご家族の協力を得て利用を続けている。 ・数年はコロナ感染状況により面会の制限はあるがゆっくり話せるように支援している。	ご家族や知人からの連絡は可能な限りで面会に努め、電話で話せるように支援している。	コロナ禍であるため、窓越し面会を実施している。事前予約制ではあるものの、多くの利用者家族が窓越し面会をされて、今までの家族との関係が途切れないようにしている。携帯電話を所持している利用者もいるので、コミュニケーションを取れるようにしている。家族から事業所に電話があった際は、利用者に電話を取り次ぐこともある。知人や友人の方と年賀状のやり取りをしている利用者もいる。各ユニットで毎月、広報誌を作成して、利用者家族にも送付をしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者個々の性格を把握し相性をみてリビングでの席の配置を決めている。他者の関わりが苦手な方には孤立しないようスタッフが関わっている。	利用者同士の関りを観察し、テーブルの配置に気を配っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご家族の希望があれば相談、支援を行っている。	こちら側より関係を断ち切る事はない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わり合いの中で本人の希望や思いを聞き取るよう心掛けている。聞き取りの難しい利用者に対しては日々の行動や態度で把握するよう努めている。	コミュニケーションを図る中で、思いや希望を組み取り、支援につなげている。	日々の関りの中で、利用者の言動や表情を読み取りながら、可能な限り意向を把握しようとしている。利用者からハンバーガーが食べたいとの希望があったり、近くを散歩したいとの希望があったため対応する等している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のモニタリングでこれまでの生活歴などは把握しているが本人との会話の中でより詳しく経過が把握できるように努めている。	入居前に、受け持ちのケアマネジャーがいらした場合は、情報提供を求め把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状況、心身の状態は細かく介護記録に記入し職員全員が情報共有できるようにしている。また、朝、夕の申し送り時には口頭で説明を行っている。	食事や入浴、レクリエーション参加時の様子から、現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向、本人の意向を聞き取りまた定期的なカンファレンスを行い職員の意見交換を行った上で介護計画を作成している。	カンファレンスを開催し、ケアについての意見やアイデアを募り、計画の作成にあたっている。	職員が利用者の意向をお聴きして家族にその意向をお伝えしている。他にも利用者家族に電話で意向をお聴きしている。窓越し面会の際に、家族の意向をお聴きする様になっている。アセスメント、サービス担当者会議録、ケアプラン作成、モニタリング作成は計画作成担当者が作成をしており、居室担当から情報収集をしてモニタリングを作成している。	ケアプランの第2表のサービス内容欄は医療サービスとの連携についてや、インフォーマルサービスの内容も盛り込んではどうだろうか。

R4.11自己・外部評価表(グループホームピアおざさ)

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを基に利用者様の状態を個別記録に時間毎に記入し、特変等ある際は、カンファレンスにて話し合い、情報を共有し、ケアプランの変更行っている。	以前より日々の記録を詳しく書き始めたことにより情報共有や利用者の変化に気づき、話し合う場を設けて介護計画の見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様面会、電話連絡の際、利用者様の状況、日々の過ごし方等を、細かく報告行い、ご家族様の希望、要望をお伺いし、柔軟な支援や、サービスの向上に取り組んでいる。	1人1人の状態や気持ちをくみとり、その方にあったサービス(ご家族との面会、室内での楽しみへの取り組み等)を提供できるよう心がけている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、コロナの為、地域資源等の協同等計れていない。利用者様に四季折々楽しんで頂ける様に、季節の行事や利用者様が充実した毎日を過ごせる様に支援している。	コロナ禍が続いているので現在は難しいが、なじみのお茶屋さんや段ボールを地域のリサイクルセンターと一緒に持って行ったりできるように支援していきたい。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様、ご利用者様にかかりつけ医をお伺いし、希望に添った病院に往診して頂いている。毎月2回の往診にて、日々の状態を報告、相談し、薬の調整、変更の場合にはご家族様へ報告し、説明している。	定期的な往診や急な体調変化、転倒があった場合すぐに連絡がとれる体制を支援している。	今までかかっていた医療機関に受診をすることもできるが、現状は利用者及び利用者家族の希望で、協力医にかかっている利用者が殆どである。他科受診支援については基本的には利用者家族対応をお願いしている。家族の対応が難しい場合は、事業所職員が対応をしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置はないも、特変時や普段の様子等、かかりつけ医の医師や、看護師に報告、指示を仰ぎ、必要時は、往診に来て頂き、適切に支援を行えている。	施設内に看護師が不在の為、訪問診療の看護師へ同行時や電話にて状況を伝えている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、職員付き添い、ご家族様に状態の報告を行っている。入院時の様子、状況は、随時、病院関係者、ご家族様と連絡を取り、今後の対応等、相談、情報共有行い、柔軟に関係づくりを行っている。	救急搬送時、ご家族が間に合わない場合、病院まで職員が付き添っている。病院関係者、家族と情報交換を行い、退院まで情報共有を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様、かかりつけ医、スタッフにて、意見交換を行い、終末期に向けて、ご家族様の希望に寄り添い、施設で出来る事をお伝えし、かかりつけ医と連携を計りながら、利用者様に見合った支援に取り組んでいる。必要に応じて、訪問看護を利用して頂いている。	事前にご家族、主治医との話し合いの場を持ち、施設でできる事、できない事を説明し、方針の共有を行っている。また、主治医や訪問看護との連携を行い、チームで支援に取り組んでいる。	入居時に、事業所に対応できる状態像を十分に説明し、看取り対応もしている旨の説明をしている。今年は看取り対応を3名実施しており、職員や利用者家族と緊急連絡先の確認をして、利用者家族や職員の不安を少しでも払拭するようにしている。	

R4.11自己・外部評価表(グループホームピアおざさ)

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ前は、救命救急を受講してもらい、応急処置や緊急時の初期対応を学んでいた。入居者様の急変などの際には、かかりつけ医連絡し、指示を仰いでいる。	利用者の急変や事故発生時は、かかりつけ医との連携を図っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を実施している。参加できる利用者さまにも協力して頂いている。災害時には地域の民生委員や近隣の介護事業所への連絡体制を整えている。	火災や地震時の災害について勉強会を行っている。	年2回、地震、火災についての訓練を実施しており、内1回は夜間想定訓練を実施している。水、レトルト食品を3日分備蓄している。近隣施設の職員にも避難訓練に参加をお願いしたり、職員がローテーションで参加できるようにしている。水消火器の訓練も実施している。避難訓練をする日程が決まったら、民生委員や商店会会長にも案内をしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	羞恥心の配慮や自尊心を傷つけない言葉遣いプライドや尊厳に配慮した対応を心がけている	個々の人格を尊重し対応している。	排泄介助の際はプライバシーの確保をするために、確実に扉を閉めたり、排泄介助時に、他の利用者に分かるような声掛けをしないようにしている。排尿や排便があった際は、他利用者には分からないような職員共通の表現方法で伝達するようにしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自分の思いや希望が表現出来る様、声かけていく。	出来るだけ本人が希望されてる事を支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いなどしないようにして、ご自身の意見を尊重し、希望に添った支援が行える様に努めている。	出来るだけ本人の希望に添えられるよう支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身の希望が少ないため、季節にあった服を提案し、着ていただいている。ご家族に相談し、新しい服や、季節にあった服を都度、お願いしている。	その人らしい身だしなみの支援が出来ている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様とカレー作りをしたり、誕生日には希望を伺って、提供したり、食事を楽しむことができるように要望を取り入れている。食器洗いができる方にはお願いして食器を洗って頂いている。	個々に合った食事形態が出来ている。利用者様の出来る事を手伝ってもらっている。	3食宅配の食事を頼んでおり、職員が温めて提供している。炊飯は事業所でしており、利用者が時々米研ぎを手伝って下さっている。テーブル拭きや茶碗拭きを手伝って下さる利用者もいる。行事の際に職員と利用者と一緒に野菜の皮むきをしたり等、一緒に調理をする機会もある。誕生会の時に、握り寿司やピザの出前を利用することもある。	

R4.11自己・外部評価表(グループホームピアおざさ)

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量について、記録をしている。状況に応じて、介助が必要であれば、介助を行い、摂取して頂いている。嚥下が低下している方には、飲み込みやすいムース食の提供もしている。	食事チェック表を作り、毎食の食事を確認している。その人の食事形態をこまめに確認しながら変更している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回訪問歯科の口腔ケアを行い、毎食後に口腔ケアをして頂いている。介助が必要な方には職員が介助をしている。	日々の口腔ケアの他、週一回の訪問歯科による口腔ケア実施、義歯も夕食後に洗浄剤につけるなどして対応している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を注視し、時間帯、リズムを考慮し、誘導、または、確認をしている。必要に応じて、声かけをして、トイレでの排泄に向けての支援をしている。	その方の排泄パターンに合わせたトイレ誘導をこまめにしている。無理強いはいはしないが、出来る事は自分でしてもらい、見守りを行っている。	入居時はリハビリパンツを使用していた方が、入居後に布パンツに移行できた改善事例がある。排泄チェック表を活用する事で、排泄介助の時間帯をずらしたり、声掛けをするタイミングを考えて、日々排泄介助をしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の把握し、ヨーグルト、牛乳を提供している。程よく運動を促し、必要に応じて、薬で調整している。	排泄チェック表にて排便有無の確認を行っている。訪問診療時にその都度状態を説明し医師の指示に従い服薬対応を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日のスケジュールに基づき、入浴を促している。拒否がある場合は、無理強いせず、時間を見計らい再度、声かけを行ったり、日程を変更している。	週2~3回の入浴日に、体調変化がない限り入浴して頂いている。	毎日3名程度入浴介助しているが、入浴を嫌がられた時は、入浴曜日を変更して対応している。入浴剤は毎日使っており、どの入浴剤を使いたいかを利用者に選んでもらっている。週3回入浴介助を実施している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	穏やかで、静かな環境づくりに努めている。必要に応じて、睡眠導入剤を内服している。	夜間の睡眠の他、個々に応じてリラクゼーションチェアで昼間も休んでもらったりしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類、効果、副作用について、常に把握している。薬の変更の際には、必ず、確認を行っており、服薬の際には、チェック票に記入している。	服薬介助を行い、誤薬事故が無いよう努めている。日時、名前を確認し服薬を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割をもって頂いたり、利用者様の趣味を活かした事を提供している。イベント事や日々のレクリエーションで、生活に変化をもたらすため、積極的に行っている。	その方の出来る事を声掛けし、実行してもらっている。食器吹きや洗濯物たたみは日々行ってもらっている。歌や軽い運動も取り入れている。		



R4.11自己・外部評価表(グループホームピアおざさ)

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にて、施設外の外出が出来ず、ベランダにて、日光浴、花見をしている。	現在は外出支援は出来ていない。コロナ禍の状況で以前のように外出は出来ていないが、車で出かけて現場で降りる事なく帰設する行事は行ったことがある。今後も計画している。	コロナ禍ではあるが、事業所近隣を散歩する機会を持っている。感染対策を徹底した上で車外に出ることなく、車内から花見や紅葉を鑑賞するドライブを実施している。プランターで季節の花を育てたり利用者が水やりをする等、日常的にベランダに出る機会を持っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は、ご利用者様に持って頂かないようにしている。必要な場合は、ご家族様へ相談している。	支援していない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様より、電話があれば、取りついでいる。また、ご利用者様から要望があれば、ご家族様へ電話して、お話して頂いている。	支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分には、利用者様の心落ちつける様、壁には季節感を感じられる飾りつけや、室温、光、音等、心地よく過ごせる様に気を配り、調整している。	施設内の掃除は毎日行う。不快、混乱を招くと想像される事には出来るだけ配慮している。季節感も取り入れ、掲示物も一緒に手作りして展開している。	テーブル、椅子、ソファ、テレビ、CDラジカセがあり、3階ユニットには天窓があり、2階ユニットは広いベランダがあるため明るい日差しが入り、明るい環境である。利用者で作成した作成を掲示したり、行事の際の写真が貼ってある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆様の共有部分の席は穏やかに過ごすことのできるように工夫している。ご利用者様の相性を考え席を配置している。居室で過ごしたい方には居室で、過ごして頂いている。	工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で、穏やかに過ごせる様にご本人の愛着のある物を持参して頂いている。	持参された家具等、全て使って頂いている。折々に季節毎の手作りカレンダー等も好まれる方の居室には飾り居心地の良い空間作りをしている。	介護用ベッド、クローゼット、カーテン、エアコン、電灯が設置されている。利用者の中には、家族写真や雑誌、手作りカレンダー、テレビ、ダンス等思い思いの物を持ち込んでいる方もいる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人、お一人出来る事を確認して、居室、リビング等の安全性を考え、居室の戸に名前を書いたり、トイレの表記も大きく分かりやすいよう工夫している。	工夫できていると思う。		